令和７年平和祈念滋賀県戦没者追悼式 知事式辞

本日、多数の御遺族ならびに御来賓の皆様をお迎えして、令和７年平和祈念滋賀県戦没者追悼式を執り行うにあたり、先の大戦で亡くなられた全ての御霊に対しまして、滋賀県民を代表し謹んで哀悼の誠を捧げます。

先の大戦から８０年の年月が過ぎました。この戦いでは、滋賀県出身の３２，７１５名の尊い命が失われました。遠く故郷を離れ、祖国の安寧を願い、愛する家族を思いつつも、壮絶な戦場に倒れ、傷つき、あるいは飢えや病に苦しみながら多くの方が異国の地で亡くなられました。その中には、将来を嘱望されていた若者たちの命も、数知れず、また多くありました。

過日、８月９日には、熊本県天草市で開催された、牛深沖で撃沈された旧日本海軍巡洋艦「長良」、３４８名の犠牲者の慰霊式に追悼メッセージを寄せました。ここでも、滋賀県から出征された２６名もの方が亡くなられています。

また、肉親や御家族を失われ、残された御遺族のお気持ちや戦後の塗炭の御苦労を想うと、今なお、悲痛の念が胸に込み上げてまいります。

今、私たちが当たり前のように享受している「平和と繁栄」は、戦禍の中で亡くなられた多くの方々の尊い犠牲の上に築かれていることを、決して忘れてはなりません。

歴史を教訓として、わが国日本は一貫して平和国家としての歩みを進め、世界の平和と繁栄にも力を尽くしてきました。

しかしながら、世界情勢をみますと、ガザ・中東地域やウクライナでは、罪のない幼い子どもまでもが攻撃にさらされ、多くの命が犠牲になるなど、世界各地で、今なお紛争や暴力が絶えないことは、本当に悲しく残念なことです。

戦後８０年という節目を迎えた今、平和の尊さを深く胸に刻み、未来に向けてどのような社会を築いていくべきか、私たち一人ひとりが改めて考えてまいりたいと存じます。

私自身、この春に広島を訪れ、実際に１２歳のときに被爆された方の証言を伺いました。大切な御両親も、たくさんのお友達も原爆により亡くされておられる御年９２歳のその方の話からは、当時の匂いや風までも感じられるほどの強い衝撃を受けました。時折、涙をこらえながら言葉を紡がれるそのお姿からは、戦後８０年を経た今もなお、心の傷が癒えることなく、その御記憶がいかに鮮明に残っているかが、ひしひしと伝わってきました。

核兵器の廃絶は、人類共通の願いであり、あの日我が国が経験した恐怖、痛み、悲しみ、苦しみを、もう二度と誰も味わうことがないよう、抑止力から核という要素を取り除き、一日も早く「核なき世界」を実現するとの思いを、いっそう強くしたところです。

今月１５日には、日本武道館での全国戦没者追悼式に参列させていただきました。また、１８日には、県内戦没者の慰霊のために膳所公園に建立されている「滋賀県戦没者英霊塔」の周辺を、滋賀県遺族会の皆様と一緒に清掃し、そのもとにございます御英霊の御位牌に手を合わせてまいりました。先人たちが築きあげた、この平和の重みを受け止め、守り続けていく決意を新たにしたところです。

私を含め、戦争を知らない世代が県民の９割近くを占める時代になりました。先の戦争がどれほど多くの幸せな家庭、前途ある若人の人生を奪ったのか…、その事実を知り、学び、そして世代を超えて語り継ぎ、悲惨な戦争を二度と繰り返さないために、その記憶を風化させることなく、平和への思いを未来へ繋いでいく使命を果たしてまいります。

本日は、中高生による平和メッセージの発表、滋賀県遺族会による語り部証言、さらには、子どもたちを中心とする合唱を予定しております。幅広い世代の方々に参列いただくことで、みんなで平和について考え、自分ごととして捉える機会となることを願っております。

戦争の悲惨さや平和の尊さを、次の世代に着実に語り継ぎ、戦後９０年、１００年、そしてその先の未来へと、誰もが安心して、心豊かに暮らせる美しい湖国滋賀を引き継ぐため、恒久平和の実現に向けてさらなる努力を積み重ねてまいりますことを、固くお誓い申し上げまして、式辞といたします。

令和７年８月３０日

滋賀県知事　三日月　大造